

苗穂

苗穂とは、アイヌ語の「ナイ・ポ」「ナイボ」から付けられたもので、「子である川」「小さな川」という意味。現在はマンシヨンの多い住宅地帯だが、開拓当時は小さな川、沢のある湿地帯だった。

東北

明治時代、農務長官のケプロンが、豊平川の無尽の水力を利用して工場を作るのがよいと指導したことから工場地帯に発展。後には、中央体育館周辺の北1条通に5軒の武道具店が集まっていたので武道具通と呼ばれた。

中央

開拓当時からオフィス街として発展し、まちづくりの基盤となった。現在でも官公庁、銀行、百貨店などがあり、行政、金融、商業の中心地として札幌の表玄関となっている。

東

1858(安政5)年ころ、吉田茂八の一家が豊平川の渡し守として定住したのが始まり。その後茂八は、開拓使から後の創成川の延長工事を請け負い「吉田掘」の名を残すなど、札幌の開拓に大きく貢献した。

豊水

札幌の母なる川である豊平川、鴨々川、これらの支流が無数に流れ、水が豊かであったことから、この一帯は豊水と呼ばれ、それが地区の名となり、今に至っている。

本府

本府とは、開拓当時「開拓使本庁を含む敷地」などを指しており、札幌本府(札幌の中心)として札幌建設が行われた。札幌の基点「札幌建設の地」碑(南1西1)が建てられている。

西創成

創成という名は、大友亀太郎が水田用水のため人為的に作った大友堀を創成川と名付けたことが始まり。創成小学校は、西創成と呼ばれていた時代があり、これが地区の名の元になったと言われている。

曙

東本願寺以南一帯の野原を薄野の地続きである所から明篠と呼ばれ、それが曙野に改められた。曙野を曙と字を当てて、この一帯を曙地区と呼ぶようになった。

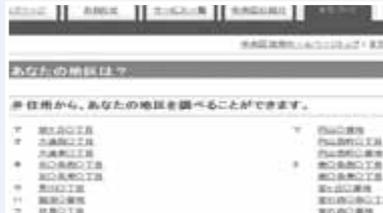
山鼻

藻岩山のふもとに位置し、山端と言われているが、後に山鼻の字が当てられた。この地域はシカが多く生息していたため、アイヌ語で「ユク・ニクリ(鹿林)」とも呼ばれた。



ホームページを使った地区検索

中央区役所ホームページトップ>まちづくり>あなたの地区・地区の出来事>あなたの地区は? ([http://www.city.sapporo.jp/chuo/machi/chiiki/chiku\\_search/](http://www.city.sapporo.jp/chuo/machi/chiiki/chiku_search/)) とページをたどると簡単にあなたの住む地区を検索することが可能です。ぜひ調べてみてください。



(詳細) 総務企画課広聴係  
☎ 231-2400